

船舶事故等調査報告書

平成23年11月24日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故等番号	2010横第224号	
事故等種類	衝突	
発生日時	平成22年11月13日（土） 19時15分ごろ	
発生場所	東京都港区お台場海浜公園の水域内 （概位 北緯35°37.9′ 東経139°46.5′）	
事故等調査の経過	平成22年11月15日、本事故の調査を担当する主管調査官（横浜事務所）を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。	
事実情報	<p>船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等</p> <p>A 旅客船 ^{おおえど} 大江戸丸、36トン 140094、有限会社船宿三浦屋</p> <p>B 旅客船 モーリンII、19トン 230-18619東京、三興商事株式会社、築地ボートクラブ（船舶管理会社）</p>	
乗組員等に関する情報	<p>A 船長A、六級海技士（航海）</p> <p>B 船長B、一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定</p>	
死傷者等	なし	
損傷	<p>A 右舷船首ハンドレール曲損</p> <p>B 右舷船首ハンドレール曲損、右舷船首外板擦過傷及び破孔</p>	
事故等の経過	<p>A船は、船長Aほか4人が乗り組み、旅客48人を乗せ、お台場海浜公園内の水域で抜錨し、約3～3.5ノットの速力で手動操舵により南西進中、B船に気付かず、平成23年11月13日19時15分ごろA船の右舷船首とB船の右舷船首が衝突した。</p> <p>B船は、船長Bと旅客の21名が乗船し、お台場海浜公園内の水域で漂泊していたところ、A船が接近していることに気付き、舵を左にとったが間に合わず、B船の右舷船首とA船の右舷船首が衝突した。</p> <p>船長Aは、海浜公園内の水域には、他の屋形船が錨泊していることを知っていたが、屋形船以外の船舶はいないものと思っていた。</p> <p>お台場海浜公園では、東京都港湾局の水質改善実験により、水域を囲むようにして水中スクリーンが設置され、船舶の出入りのためにスクリーンの中央に60mの開口部が設けられており、開口部の両端及び中央にそれぞれ浮標が設置されていた。</p> <p>船長Aは、開口部の中央を示す浮標が消灯しているように見えたので、その浮標の方向を注視していたB船に気付かなかった。</p>	
気象・海象	<p>気象：天気 曇り、風向 北北東、風力 2、視界 良好</p> <p>海象：潮汐 上げ潮の末期、潮高 約1.4m</p>	
その他の事項	本事故が発生した水域は、陸岸からの照明も多く、また、法定灯火とは別の灯火を点灯している船舶が多数いた。	
分析	乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析	<p>あり</p> <p>なし</p> <p>なし</p> <p>A船は南西進中、B船は漂泊中、お台場海浜公</p>

	<p>園内の水域において、両船が衝突したものと考えられる。</p> <p>船長Aは、水中スクリーンの開口部の中央を示す浮標の方向に意識を集中していたことから、B船に気付かず、B船と衝突したものと考えられる。</p> <p>B船は、A船に気付き、舵を左にとったものの、A船と衝突した可能性があると考えられるが、船長Bから情報が得られなかったため、衝突に至る状況を明らかにすることはできなかった。</p>
原因	<p>本事故は、夜間、お台場海浜公園内の水域において、A船が南西進中、B船が漂泊中、両船が衝突したことにより発生したものと考えられる。</p>